



昭和電線グループ 2023年3月期 第2四半期

決算補足説明資料 Nov 4,2022

昭和電線ホールディングス（株） 東証プライム（5805）

2022年度 第2四半期決算 概況

経営環境

- ワクチン接種の進展に伴い社会経済活動が持ち直すも、ロシア・ウクライナ情勢などの長期化による原材料・エネルギー価格高騰やグローバルサプライチェーンの混乱が続く中、大幅な円安が進んだ。
- 半導体不足による自動車関連製品の需要は引き続き減少。
- 電線業界においては、電線全体の需要は前年同四半期並み。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同期より上昇。

売上高

出荷銅量が減少した一方、銅価格上昇により、全体としては**前年同期比増収**。

【主な事業分野別状況（前年同四半期比）】

電力インフラ・・・電力機器の製造能力増強を図りながら安定需要を捕捉。

自動車・・・昨年から続く自動車減産の影響を受け、高機能製品の需要低調。

産業用デバイス・・・サプライチェーンの混乱は解消されるも、中国・ベトナム操業への影響は一部継続。

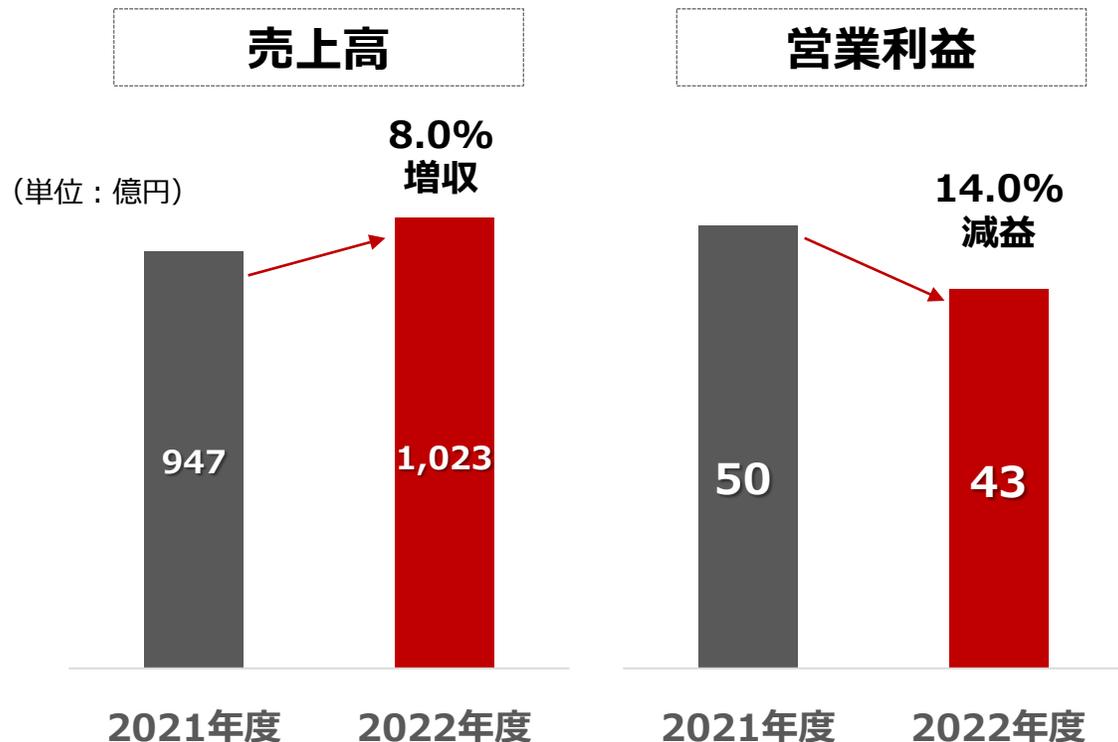
営業利益

前年同期比減益。原材料価格高騰への対応を進めるも、国内生産拠点再編の一部立ち上げの遅れ、自動車減産の継続、サプライチェーン混乱による中国・ベトナムでの操業への影響があった。

2022年度 第2四半期決算のポイント

2Q前年同期比

出荷銅量が減少した一方、銅価格上昇により、
前年同期比増収減益。



2Q進捗率

売上高・営業利益ともに平年並み。

(単位：億円)	通期計画	FY18-21 平均進捗率	2Q進捗率
売上高	2,170億円	47.7%	47.1%
営業利益	103億円	41.4%	41.8%
銅建値	1,150円/kg (計画前提)	—	—

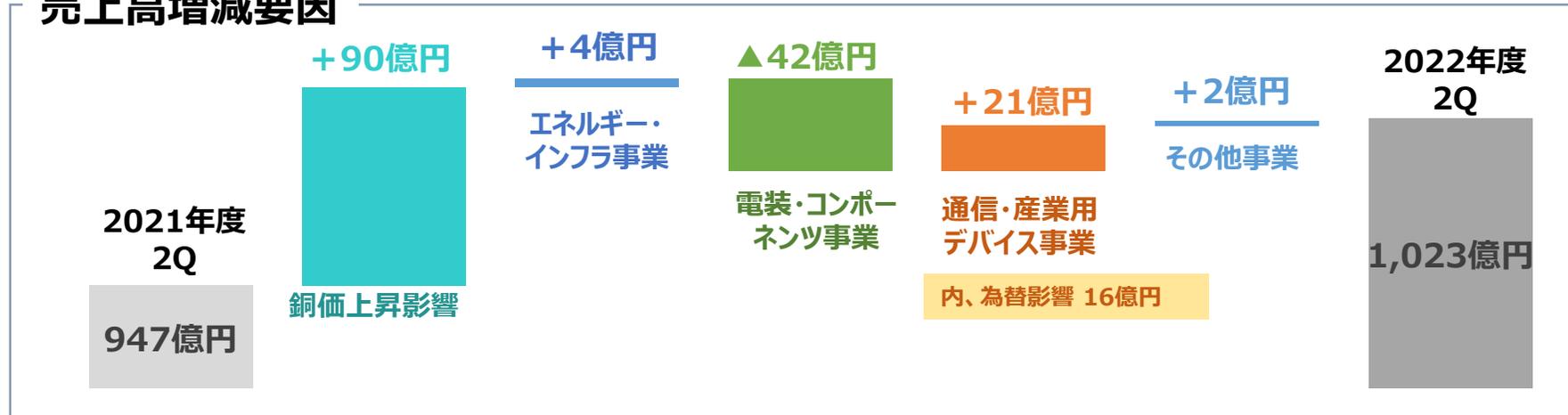
2Q 連結損益計算書

(単位：億円)	2021年度 2Q実績	2022年度 2Q実績	2022年度 通期計画	前年同期比 %	2Q進捗率 %
売上高	947	1,023	2,170	8.0	47.1
営業利益	50	43	103	▲14.0	41.8
営業利益率 %	5.3	4.2	4.7	-	-
経常利益	51	44	103	▲14.6	42.3
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	32	37	90※	17.1	41.3

※2022年9月22日業績予想修正値を反映

2Q 売上高・営業利益 増減要因（前年同期比）

売上高増減要因

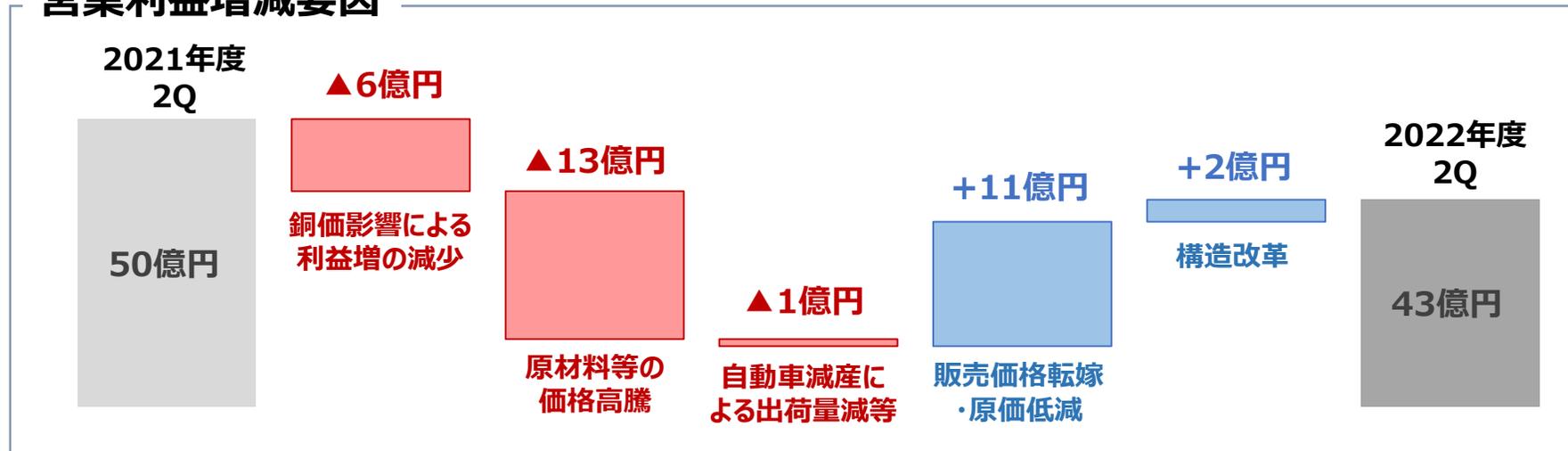


【増減要因】

1. 売上高
主に銅価上昇によるコストアップを適時に販売価格にスライドし増収。為替の影響は、通信・産業用デバイス事業に16億円程度含まれる。

2. 営業利益
一部製品での価格転嫁の遅れや、電装・コンポーネツ事業での自動車減産による売上減等により減益。為替の影響は0.4億円プラスと軽微。

営業利益増減要因



【今後の取り組み】

原材料等の価格高騰による利益押し下げ要因に対し、主に**販売価格転嫁・原価低減施策、構造改革**を推し進めカバー。

セグメント別通期計画の見直し

計画当初からの外部環境変化等に伴い、**全社の通期計画目標は変えずに、各セグメントの目標を見直し。通信・産業用デバイス事業での上期営業利益の進捗遅れを他セグメントでカバーする。**目標達成に向けて、下期各施策を強化。

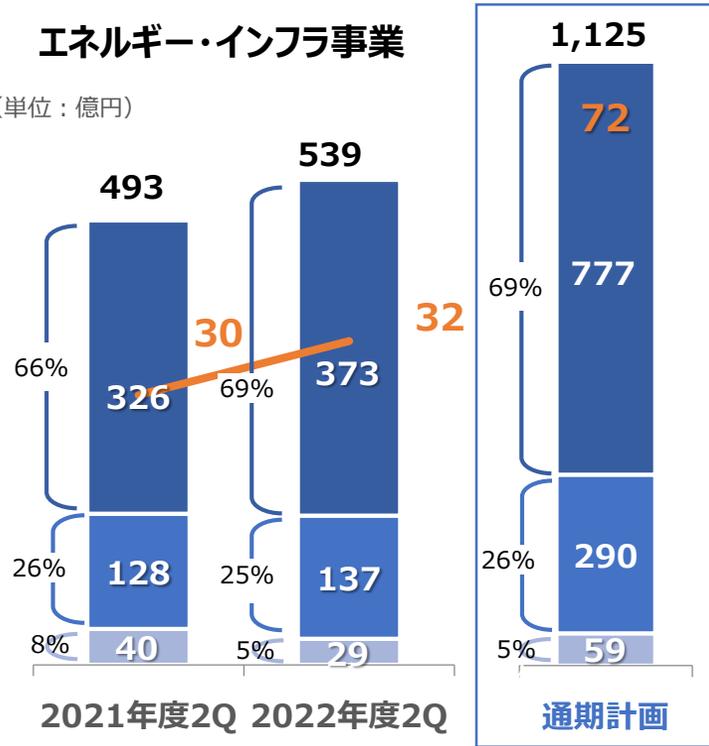
(単位：億円)		2022年度 通期計画 (見直し前)	2022年度 通期計画 (見直し後)	増減率 %	進捗率 %
エネルギー・インフラ事業	売上高	1,095	1,125	2.7	47.9
	営業利益	68	72	5.9	45.0
	営業利益率(%)	6.2	6.4	-	-
電装・コンポーネンツ事業	売上高	715	643	▲10.1	46.5
	営業利益	16	18	12.5	58.6
	営業利益率(%)	2.2	2.8	-	-
通信・産業用デバイス事業	売上高	295	345	16.9	47.5
	営業利益	25	19	▲24.0	24.4
	営業利益率(%)	8.5	5.5	-	-

セグメント別 2Q業績および通期計画

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益

エネルギー・インフラ事業

(単位：億円)



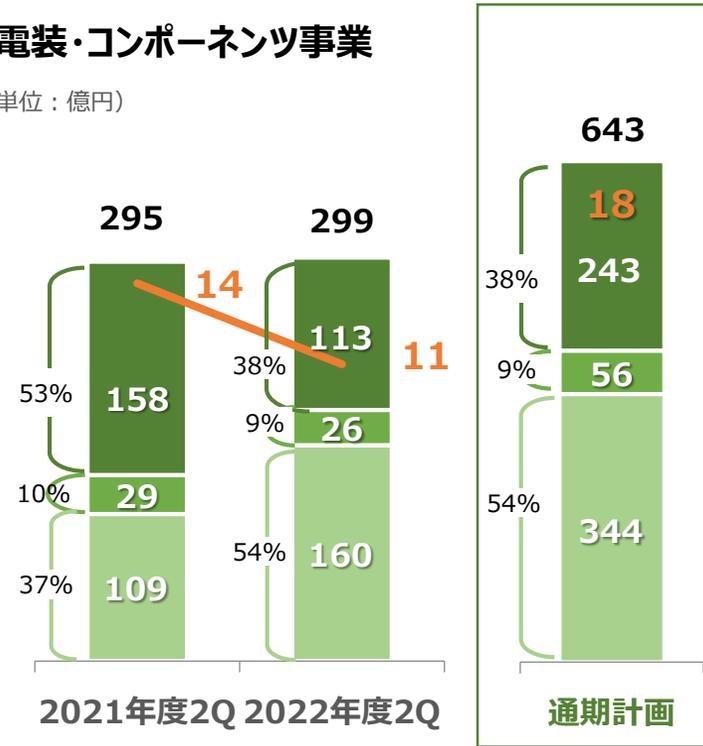
営業利益率	6.2%	6.0%	6.4%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高41億円増
建設関連の販売価格見直し、収益改善施策と電力インフラの安定需要により**前年同期比増収増益**。
下期も建設関連、電力インフラともに堅調な需要を見込んでおり、**通期計画を上方修正**。

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益

電装・コンポーネンツ事業

(単位：億円)



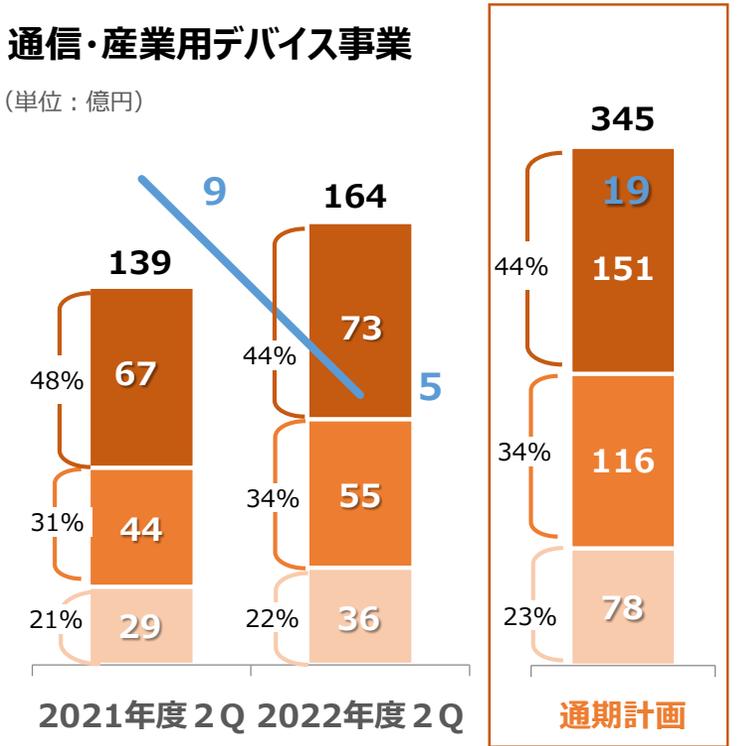
営業利益率	4.7%	3.5%	2.8%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高46億円増
重電向けは堅調であったが、自動車向け高機能製品は減産影響を受け**前年同期比増収減益**。
下期も減産影響は続くが、重電向け等で収益性重視の展開を進めることで**通期営業利益は計画上方修正**。

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益

通信・産業用デバイス事業

(単位：億円)



営業利益率	6.3%	2.8%	5.5%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高4億円増
主に通信ケーブル再編の立ち上げの遅れや価格見直しの遅延により収益性が低下し、**前年同期比増収減益**。
下期は計画通り進む見込みとなるが、上期の影響が大きく、**通期営業利益は計画下方修正**。

2Q 貸借対照表 (前期末比較)

(単位：億円)	2021年度末	2022年度2Q	増減
資産合計	1,474	1,545	71
売上債権	527	531	4
棚卸資産	260	280	19
固定資産	587	613	26
負債合計	884	938	54
仕入債務	267	258	▲9
有利子負債	392	454	62
純資産合計	589	607	18
自己資本	583	599	16
自己資本比率(%)	39.5	38.8	▲0.7
DEレシオ(%)	67.2	75.8	8.6

【固定資産】

各種設備投資と海外子会社の固定資産為替増により増加。加えて退職金制度の年金資産に21億円の特例掛金を拠出。

【有利子負債】

原材料価格高騰と銅価格高騰により運転資金増大。

【自己資本比率】

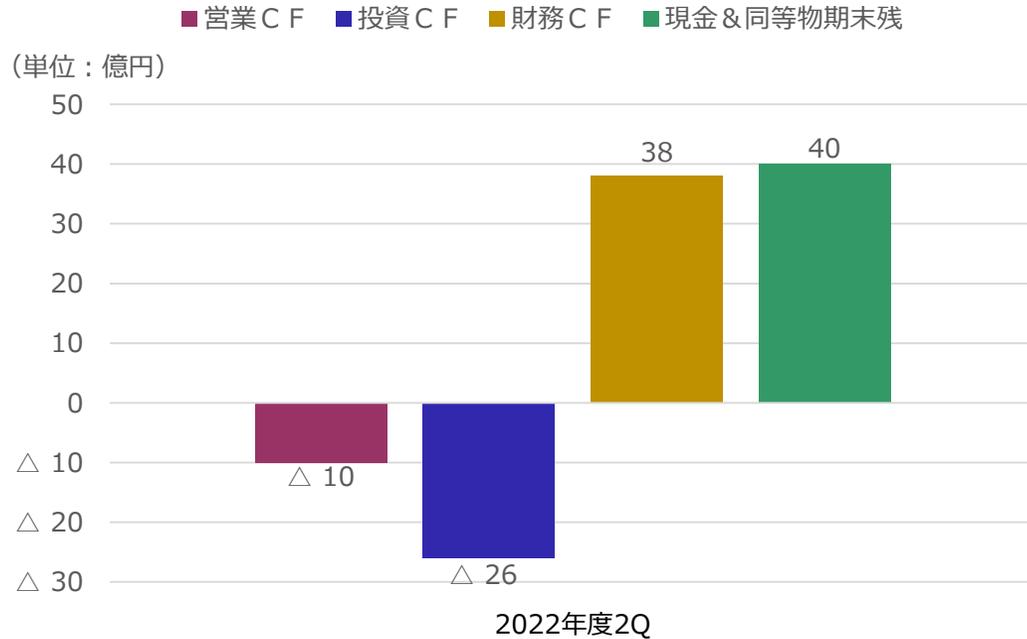
自己資本は増加するも、総資産増加により、前期末対比0.7%減。

【DEレシオ】

自己資本は増加するも、有利子負債も増加したため、前期末対比8.6%増。

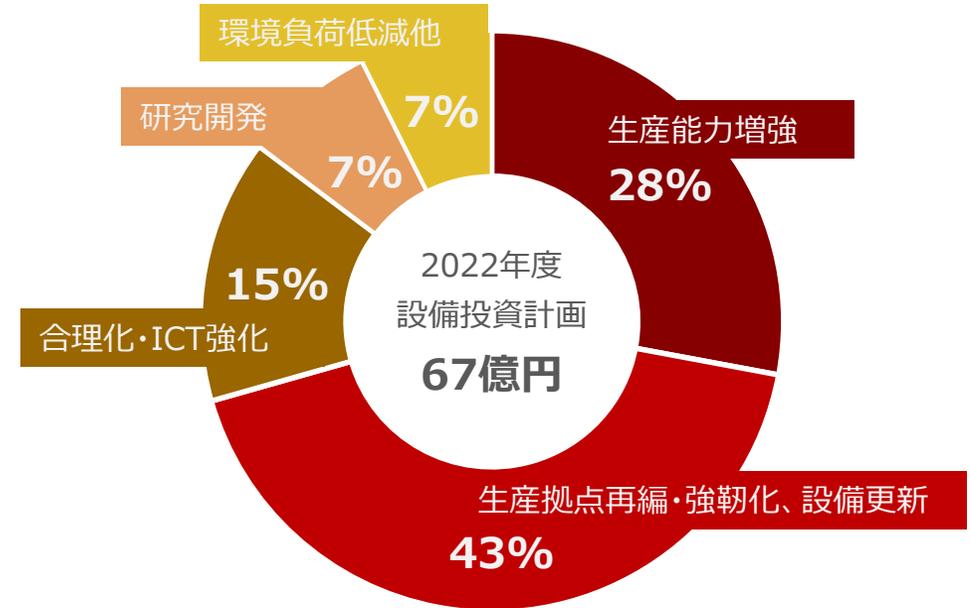
2Qキャッシュフロー実績と通期の設備投資計画

2Q連結キャッシュフロー



- ・営業CFは棚卸資産が増加したこと等による運転資金増大のためマイナス
- ・投資CFは有形固定資産の取得によりマイナス
- ・財務CFは借入金の増加によりプラス

2022年度設備投資計画



- エネルギー・インフラ事業： 25億円
- 通信・産業用デバイス事業： 10億円
- 電装・コンポーネンツ事業： 11億円
- 他、拠点強靱化、システム投資等： 21億円



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。
なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）

経営戦略企画部 戦略課

TEL：044-223-0520

E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

昭和電線ホールディングス（株） 東証プライム（5805）